

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	48人	算数	48人	理科	48人
------	----	-----	----	-----	----	-----

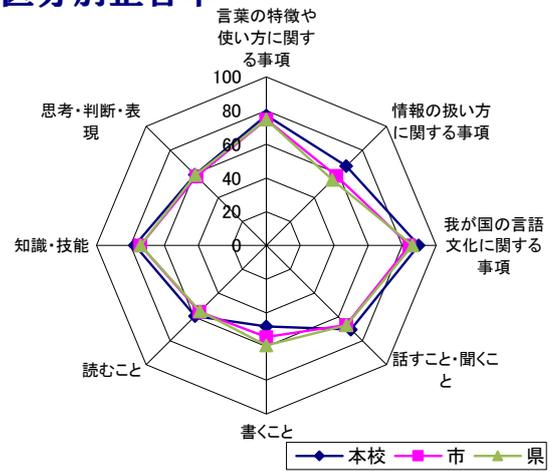
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	77.2	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	66.7	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	89.7	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	70.5	66.7	66.9
	書くこと	48.1	54.3	59.3
	読むこと	59.3	55.6	55.2
観点	知識・技能	77.4	74.1	74.0
	思考・判断・表現	59.3	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

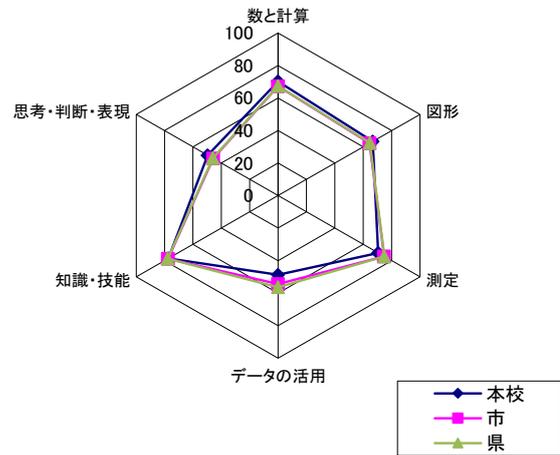
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも2.5ポイント高い。 ○漢字を読む問題は、正答率が8割以上であり、第3学年に配当されている漢字がよく読めている。 ●漢字を書く問題は、正答率にばらつきが見られる。特に熟語や送り仮名を必要とする書き取りには、定着に差があると推測される。 ○主語と述語の組み合わせを答える問題は、正答率が市の平均正答率より8.6ポイント高くなっており、文中の語の関係性を正確に捉えることができていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字に関しては、既習の漢字の復習を行う中で、単体で練習をするのではなく、熟語として様々な読み書きに触れていく。また、文章を書く活動で、文章の構成を意識して既習の漢字や熟語を使っているか丁寧に添削を行い、継続して定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも8.3ポイント高い。 ○情報の一部にとらわれることなく、情報の前後関係を正しく捉えて解答している児童が多いと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて出会う言葉や分からない言葉を調べるときに、継続的に国語辞典を活用していく。また、短文を作る学習をする機会を増やして適切な意味を選択できるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の平均正答率は、市平均より5.4ポイント高い。 ○正答率が9割近くに達しており、へんとつくりの意味を理解し、意識している児童が多いことが伺える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい漢字を学習する際には、身近に置いた国語辞典や漢字辞典を活用して、自分で言葉をひいたり、同じへんの漢字を既習事項から集めたりする活動を充実させ、漢字の構成等に対する関心を高める。 ・既習学年前であっても、児童が関心をもった時期に、へんやつくりなどに触れられるように、ドリルや1人1台端末の使い方を工夫する。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも3.8ポイント高い。 ○内容を聞き取って答える問題では、どの設問においても、市の平均よりも正答率が高く、よく聞き取れている。 ●司会者として話し合いを進める発言について考える問題の正答率は3割以下であり、参加者の発言内容に着目しながらまとめ、発信できていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般において、友達と自分の意見を比べながら聞くとともに、相手に伝わるように自分の考えに根拠を付けて表現する機会を多く取り入れる。 ・話し合いの中の自分の役割によって、聞き方や話し方が変化することが分かるように、様々な立場での話し合いを取り入れていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも6.2ポイント低い。 ●特に、条件の1つとなっている6行から8行の間で文章を書くことができているのは、41.0%と市の平均正答率よりも10.1ポイント低く、問題に答えきれていない様子が伺える。また、文章の2段落目に理由とともに自分の意見を書くことも市の平均正答率よりも6.3ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を整理したり段落構成が決められていたり複数の条件を意識して文章を書くことに慣れていない様子が見られるので、国語の授業等で、要約したり、条件を付けて作文を書いたりする練習をしていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも3.7ポイント高い。 ○物語文では、叙述を基に場面の様子や内容を正確に捉えることができおり、市の平均正答率よりも10ポイント以上高い設問が複数見られる。特に登場人物の行動の理由を説明する文章を答える問題の正答率は92.3%であり非常によくできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に単元全体のためを明確に提示し、身に付けさせたい言葉の力を意識させるような授業を行うことで、全体を見通して内容を正確に捉えることができる力をさらに高めていく。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.2	67.3	67.4
	図形	66.7	64.5	64.7
	測定	70.5	74.7	74.9
	データの活用	48.7	54.4	56.4
観点	知識・技能	77.4	77.6	77.8
	思考・判断・表現	49.7	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

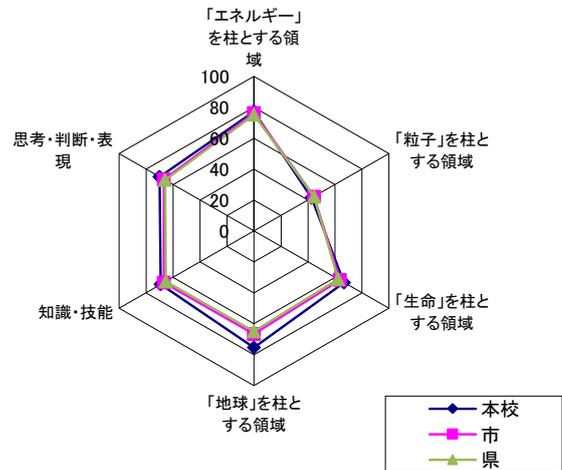
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の正答率は、70.2%であり、市の平均正答率より2.9ポイント高い。 ○数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題の正答率は、64.1%であり、市の平均正答率よりも18.8ポイント高い。 ○□を使って問題の場面を図に表す問題の正答率は89.7%であり、市の平均正答率よりも12.1ポイント高い。 ●式の意味を正しくとらえ、言葉で説明する問題の正答率15.4%、示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って、小数の減法を整数の減法に直して処理する方法を説明する問題の正答率20.5%と、低い値である。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を図や数直線で表したものを理解することができる。文章題では図や数直線などを使用して文章理解に関わる指導を継続していく。 自分の考えと異なる考えを理解すること、また、理解しても表現することが苦手な実態がある。授業において、自分の考えを図や式、言葉で表現し、自分と異なる友達の考えを理解し、それを説明する機会を設定することで、論理的に説明する技能を高める指導を行う。 スパイラル的に知識や考え方を復習する機会を設ける。 学習課題に取り組む前に、数を位ごとのまとまりで捉えたり、計算のきまりを活用したりする等の方法を手立てとして提示し、算数の見方・考え方を働かせて、課題に取り組めるようにする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の正答率は、66.7%であり、市の平均正答率よりも2.2ポイント高い。 ○円の中心とコンパスの使い方について、正しいものを選ぶ問題の正答率は、66.7%であり、市の平均正答率よりも7.7ポイント高い。 ●二等辺三角形を作図する問題の正答率は、74.4%であり、市の平均正答率よりも10.3ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 出会ったことのない問題に対する解決策を想像することが苦手な傾向があるため、同じ問題でも様々な問題形式を経験させる。また、課題に取り組ませる際は、問題解決の道筋のイメージを共有してから問題に取り組ませる。 正三角形や二等辺三角形などの図形の具体物を使いながら、視覚的、体感的にとらえさせ図形の特性を再確認させる。また、それらの図形の定義と性質について整理してまとめ図形についての知識や理解を着実に身に付けられるようにする。
測定	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の正答率は、70.5%であり、市の平均正答率よりも4.2ポイント低い。 ●時間が経過する前の時刻を求める問題の正答率は、74.4%であり、市の平均正答率よりも6.7ポイント低い。 ●身近な物の重さの単位について、正しくないものを選ぶ問題の正答率は、74.4%であり、市の平均正答率よりも6.2ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> アナログ時計など視覚的教材を用いながら時間の計算技能が身に付くよう指導する。また、生活場面でも時間を意識する場面を設定する。 60秒で1分、60分で1時間などのように、60進法のまとまりの時間計算の仕方について再確認し、「時間」と「分」と「秒」のまとまりを用いた計算ができるようにする。 大きな重さの単位のイメージができていないので、具体物を台ばかりや体重計を用いて計ったり、計ったもの何個分かを想像しながら重い物の重さを想像したりするなどして、重さの感覚をもたせたい。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の正答率は、48.7%であり、市平均正答率よりも5.7ポイント低い。 ●2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り、正しいものを選ぶ問題の正答率は15.4%であり、低い正答率となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフを見て、どのようなことがわかるのか(縦軸や横軸、1目盛りの数量、変化のしかた)などを読み取るポイントや手順に沿って丁寧に確認しながら、データ処理の技能を身に付けさせていきたい。また、1目盛りの量が異なるグラフや種類の異なるグラフを読み取る活動を増やしたり、アンケート集計などの身近なデータをグラフで表したりして、グラフについての関心や作図の技能も高めていきたい。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	77.2	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	42.7	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	66.7	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	75.4	66.6	64.9
観点	知識・技能	69.2	66.8	65.4
	思考・判断・表現	70.0	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は77.2%であり、市の平均より1ポイント高い。 ○鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法について方位磁針で確認する手法の正答率は79.5%で市の平均を9.9ポイント上回った。十分な体験活動を通して実感を伴った理解が図られた成果だと思われる。 ●ゴム動力の車を任意の場所に停める問題では、正答率が48.7%で市の正答率58.3%を9.6ポイント下回った。3つの実験結果を分析して、表には記されていない中間の数値を予測して回答する力が十分でなかったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 方位磁針で磁力の有無を確認することについては児童が個々に確認できたこともあり、知識の定着率が高かったと思われる。今後も、実感の伴う実験や体験を重ねていきたい。 ●ゴムを伸ばす長さや車の動く距離が示された表をもとにして、表には記載のない数値を予測することに課題が見られた。このことについては仮説を立てて実験を繰り返すことで、再現性、客観性、実証性の精度を高め、科学的思考が育つように指導していく。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は42.7%であり、市の平均より1.8ポイント低い。 ○分野内の分析では、物の向きが変わっても物の重さ自体には変化がないことを説明することができる児童が全体の20.5%と、市の平均を10.4ポイント上回った。 ●分割された物の総重量が元の重さと変わらないことについては、正答率が33.3%で市の平均の44.8%を大きく下回った。具体的な作業を通して実感を伴った理解が得られていないことが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 向きを変えても重さは変わらないことについて正しく説明できた割合を見ると約20%しか達成されていないことから、今後も自分の言葉で説明する時間を確保するなどして繰り返し、理解を深めていきたい。 ●物の重さは分割しても総重量が変わらないことについては、簡易天秤を使用して、体験的に実感させることで、より確実な理解へとつなげていきたい。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は66.7%であり、市の平均より3.1ポイント高い。 ○虫眼鏡の使い方やハウセンカの観察の仕方、クモが昆虫ではないことについての説明では、いずれも市の平均を10ポイント以上上回った。観察記録や成長記録を通して、器具の扱いや生き物の特徴の捉え方が身に付いていると思われる。 ●トンボの育ち方とモンシロチョウやカブトムシの成長について違いを記述する問題では、正答率が69.2%で市の平均を約10ポイント下回った。変体の仕方に違いがあることを十分に理解できていないことが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 器具の使い方や観察の仕方、特徴の捉え方については引き続き視点を明確にして活動に取り組ませる授業展開を意識して指導し、正しい理解の定着を図りたい。 ●観察を通して変化の様子を過去と比べるのか、現在あるもの同士の変化の流れを比較するのか、その両方なのかなど、を明確にして実験観察の視点を授業で提示しているが、さらに比較する理由や意味がわかるように、キーワードを提示するなど、正しい回答を書く練習を行ってほしい。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は75.4%であり、市の平均より8.8ポイント高い。 ○太陽の位置の変化を方位と結びつける問題では、正答率が59%で市の平均を約13ポイント上回った。社会科における地図の学習で習う方位との関連性が図られ、教科横断的な知識の獲得が理科に反映されていると思われる。しかし、この説問に対する無回答率は10.3%で市の平均を3.8ポイント上回っていることから、題意を理解できていない児童がいることも課題である。 ●かげと太陽の位置関係について答える問題では、正答率が89.7%で市の平均を1.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科で学習する自然事象と他教科との関りについては今後も意識して指導に当たっていく必要がある。 ●無回答率を下げるためには、聞かれていることに対して何をどの程度答えればよいのか、既習事項を基にして類似問題に学級全体で取り組んだり、答え方の型を示したりして繰り返し指導する必要がある。 ●かげと太陽の位置については、再度晴れた日に外で指導し、時間を伴った理解が得られるようにするなど、日常生活の中で実感の伴う体験の充実を図る。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習に関わるものとして、「家で、学校の授業の復習をしている」に対する肯定的回答は74.3%で市より15.9ポイント高い。「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」に対する肯定的回答は71.8%で市より13.3ポイント高い。今後も主体的に学習に取り組む態度が育つよう、授業と家庭学習を一体的に指導していく。

○「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」に対する肯定的回答は89.7%で市より14.7ポイント高い。また、「歴史上の人物や出来事を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」に対する肯定的回答は71.8%で市より9.8ポイント高い。「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」に対する肯定的回答は89.7%で市より12.2ポイント高い。自然科学や社会への興味関心が高いことを生かした授業展開を工夫していく。

●「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」に対する肯定的回答は84.6%で市より9.7ポイント低い。また、「人と話すことは楽しい」に対する肯定的回答は87.2%で市より7.2ポイント低い。今後は、さらに聞き方のポイントや話し方のポイントを指導し、繰り返しグループなどの話し合い活動を行うことで人と対話することの良さを実感させる。

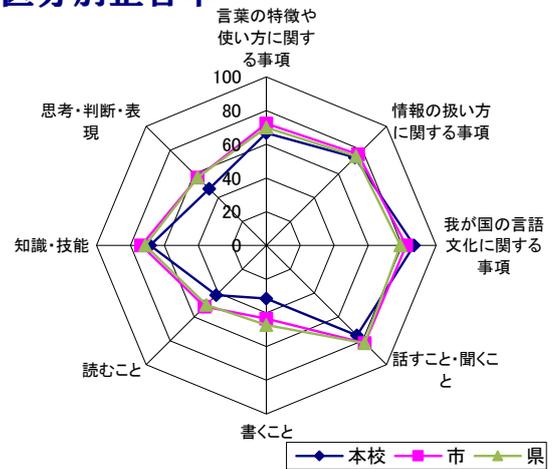
●自分自身のことに関わるものとして「ものごとを最後までやりとげて、嬉しかったことがある」に対する肯定的回答は84.6%で市より6.4ポイント低い。また、「むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」に対する肯定的回答は71.8%で市より5.6ポイント低い。さらに、「自分の行動や発言に自信を持っている」に対する肯定的回答は61.5%で市より4.3ポイント低い。今後は自尊感情を高め、自信がつくよう実技教科を中心にスモールステップで課題に取り組みせ成功体験を積み上げていく。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」に対する肯定的回答は59%で市より6.6ポイント低い。また、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」に対する肯定的回答は82.1%で市より8.2ポイント低い。お互いの良さや助かったことを伝え合ったり、家庭に知らせたりしてクラスの一人であることの喜びを味わえるよう支援する。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	66.7	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	73.9	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	87.0	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	75.5	81.9	82.0
	書くこと	31.5	43.5	47.2
	読むこと	41.6	51.4	49.8
観点	知識・技能	68.4	73.6	71.3
	思考・判断・表現	47.6	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

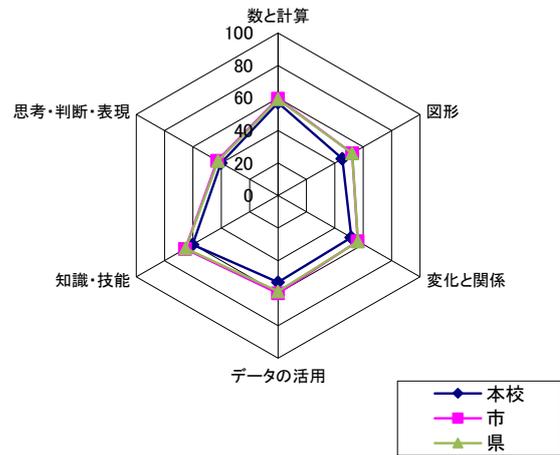
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●領域全体の平均正答率は、市平均より5.6ポイント低い。 ●漢字を書く問題が、3問中2問市平均より12ポイント以上低く、定着が不十分である。 ●修飾語への理解が十分ではなく、混同が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字に関しては、既習の漢字の復習を行う中で、単体で練習をするのではなく、特別な読み方にも触れていく。また、文章を書く活動等で、既習の漢字や熟語を使っているか丁寧に添削を行い、定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●領域全体の平均正答率は、市平均よりも2.5ポイント低い。 ●漢字辞典の使い方に関する問題で総画索引と部首索引の混同が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字辞典を身近に置き、分からない漢字や成り立ちなどをすぐに調べる習慣を身に付けさせ、漢字辞典の活用を図るとともに、教師は「総画索引」や「部首索引」といった語句を意識的に使うようする。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●領域全体の平均正答率は、市平均より4.6ポイント高い。 ○前後の文脈をよく読み適する表現を選択する問題では、正答率は87%であった。また無回答率は0%で、楽しみながらことわざに親しんでいることが伺える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせやスピーチ等の活動を積極的に取り入れるなど、さらに様々な言い回しやことわざ・熟語等に楽しみながら触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●領域全体の平均正答率は、市平均よりも6.4ポイント低い。 ●意見の共通点や相違点に着目して話し手の工夫を答える問題の平均正答率が、市の平均正答率より9.6ポイント低くなっており、話の構成を考えながら聞く意識が低いことが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全般において、友達の意見との共通点や相違点に着目して聞き、話し手の意図を捉えながら話し合いをする機会を多く取り入れる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●領域全体の平均正答率は、市平均より12ポイント低い。 ●無回答率が34.8%で、問題に答えきれていない様子が伺える。特に2段落構成で書くことが、市の平均正答率より16.8ポイント低く、自分の考えをもち、それを段落を分けて表現することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○内容を整理したり段落構成が決まっていたりと複数の条件を意識して文章を書くことに慣れていない様子が見られる。国語の授業等で要約したり、条件を付けて作文を書いたりする練習を取り入れることで、自分の考えをもち、分かりやすく表現ができるようにしていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●領域全体の平均正答率は、市平均よりも9.8ポイント低い。 ●物語文で叙述を基に登場人物の気持ちを捉える問題の正答率が市の平均正答率よりも20.2ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童にめあてを明確に提示し、叙述に焦点を当てて読んでいくことを繰り返し行い、全体を見通して内容を正確に捉えることができる力を高めていく。また、問題文や話の叙述を行き来しながら、読む手法を授業に取り入れるなど、児童に身近なものにしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.1	59.7	59.2
	図形	45.3	52.1	52.1
	変化と関係	51.6	56.1	56.3
	データの活用	53.3	60.1	58.9
観点	知識・技能	60.3	65.5	65.1
	思考・判断・表現	40.2	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

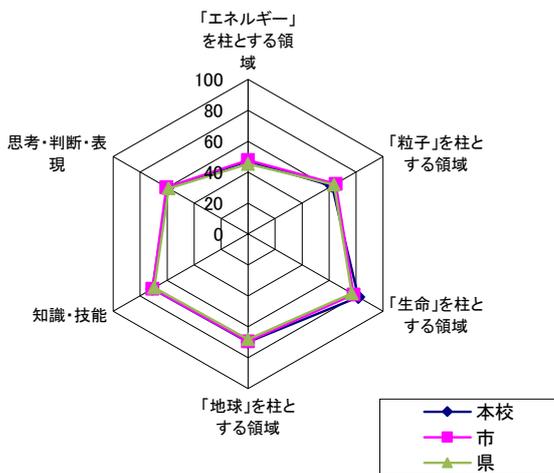
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の正答率は、57.1%であり、市の平均正答率より2.6ポイント低い。 ○小数を集めた数を答える問題の正答率は、95.7%であり、市の平均正答率よりも3.1ポイント高い。 ○数直線をもとに、異分母分数の大小関係について答える問題の正答率は、60.9%であり、市の平均正答率よりも5.9ポイント高い。 ●目的に応じて正しく見積もっているものを選ぶ問題の正答率は、19.6%であり、市の平均正答率よりも7.1ポイント低い。 ●小数の加法を複数の加法に直して処理する方法を説明する問題でも、21.7%と低い正答率になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな数の位取りの仕組みの理解が十分ではないので、位取りを意識した指導を継続する。 ・分数や概数、小数のわり算など基礎的な知識や計算技能が不足している。既習の概念や計算方法について、新しい単元を始める前に復習をする時間を設ける。 ・自分の考えと異なる考えを理解すること、また、理解しても表現することが苦手な実態がある。授業において、自分の考えを図や式、言葉で表現し、自分と異なる友達の考えを理解し、それを説明する機会を設定することで、論理的に説明する技能を高める指導を行う。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の正答率は、45.3%であり、市の平均正答率よりも6.8ポイント低い。 ●180度より大きい角の大きさを求める問題の正答率は、41.3%であり、12.2ポイント低い。 ●身近なものの面積と単位を理解しているか考える問題や面積の単位の関係を説明する問題では、それぞれ26.1%と低い正答率となっている。また、無回答率も37%となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積に対する量感が十分ではない。また、学んだことと生活を関連付けることができていない。面積や体積等、実際の大きさを体で表現する、実物を操作するなど、体験活動を通して知識の定着を図りたい。 ・角の測り方などの基本的な測定技能が十分に身に付いていない。授業での復習や、1人1台端末の復習プログラムを用いて、繰り返し学習をしながら習熟を図りたい。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の正答率は、51.6%であり、市の平均正答率よりも4.5ポイント低い。 ●2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になっているのか考えて説明する問題の正答率は、43.5%であり、市の平均正答率よりも8.9ポイント低い。 ●伴って変わる2つの数量の関係について、表を見て分かることを説明する問題では、19.6%という低い正答率となっている。また、無回答率が45.7%となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる2つの数量の関係を言葉で表すことが難しいことが伺える。2つの数量がどのように変わっているのか表で確認し、規則性を言葉で表現できるように指導していきたい。 ・もとにする数量と比べる数量、またそれらの倍数関係について整理して理解できるように、視覚教材やICTを用いて視覚的支援を行い、見通しを持って学習課題に取り組めるようにする。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の正答率は、53.3%であり、市の平均正答率よりも6.8ポイント低い。 ●2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る問題では、2つの問題で、市の平均正答率よりもそれぞれおよそ9ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能の定着が図れていないため活用問題に対応できていない。小数の仕組みに関する知識など、基本的な知識の定着を図るために朝の学習の活用や家庭学習の啓発、充実を図る。 ・データの活用では、授業の中で、グラフの縦軸や横軸の表すもの、また1目盛り大きさを注意して見ながら、2つの数量の変化について分かることを細かく整理し、データから意味のある情報を読み取れるようにする。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	47.1	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	62.3	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	81.7	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	69.9	69.5	68.1
観点	知識・技能	70.9	70.8	69.5
	思考・判断・表現	59.7	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は47.1%であり、市の平均より0.7ポイント低い。 ○並列つなぎの名称を答える設問の正答率は、65.2%で、市の平均を7.3ポイント上回った。具体物进行操作し、直列つなぎとの違いを回路図を使って体験させたことが、理解につながったと考えられる。 ●簡易検流計の読み方を答える設問の正答率は、21.7%で、市の平均正答率を5.3ポイント下回った。電流の流れと大きさが針の動きから読み取れることをきちんと理解できていなかった。 ●電流が大きくなる回路を選ぶ問題では、無回答率が15.2%で、題意が汲み取れていない実態が伺える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易検流計の操作等、具体物の操作を通して知識や技能が深められるように、授業を展開していく。道具の必要性や利便性を丁寧に指導し、その都度体験的な活動を取り入れて、習得することができるようにする。 ・電流の大きさを見ることについては、具体物や図などを操作する活動を取り入れることで、2種類の回路や極のつながりを意識させ、条件に合う答えを選ぶことができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は62.3%であり、市の平均より2.6ポイント下回っている。 ○ボールに空気を入れて弾む理由を説明する問題の正答率は、76.1%で、市の平均を13.4ポイント上回った。日常生活の中で、体験的に学んでいる成果が表れている。 ●金属や水の体積変化を答える設問の正答率は、市の平均を、総じて9～2ポイント下回った。水や金属の存在が身近にありすぎることによって観察の対象になりにくいこと、それに対する関心も低くなっていることが考えられる。 ●水の問題では、市の平均を上回っている箇所もあるが、無回答の児童が13%おり、題意を汲み取った答え方ができていないことが読み取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水・空気・金属の体積変化について、それぞれの特徴を身の回りのものや現象と関係付けて具体的に提示する指導を行っていく。 ・観察・実験の記録については、理由を明確にしながら変化の様子の表し方を表現する型を提示し、予想、実験結果、考察といった過程を大切に授業を展開し続けていく。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は81.7%であり、市の平均より3.5ポイント上回っている。 ○カエルやサクラの特徴を答える設問の正答率は、全体的に市の平均を上回っている。生活環境に恵まれ、生き物の観察に関しては、豊富な対象物が身近にあることが、知識の定着につながっている。 ○筋肉の動きについての問題では、正答率が78.3%で市の平均を3.7ポイント上回っている。ICTを用いて動画などの教材を活用したことで、知識が深まり、新しい知識を身に付けることができていると考えられる。 ●春や夏の頃の気温や動物の様子についての問題では、正答率が82.6%で、市の平均より1.3ポイント下回っていることから、題意が汲み取れていないことが感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科にこだわらず、行事など様々な活動を取り入れ、自然環境をより身近に感じられるようにする。 ・問題文の読解の仕方、解答の仕方についても、単元のまとめの段階で、とちぎっ子学習状況調査の過去の問題を利用して丁寧に指導することなどにより、題意にあった言葉を選ぶための言語力を身に付けさせる必要があるため、教科横断的な指導を継続的に行う必要がある。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は69.9%であり、市の平均とほぼ同じであった。 ○月の動きについて当てはまる言葉を選ぶ問題では、正答率が76.1%で、市の平均を7.6ポイント上回った。星の動きと月の動きを関連付けて正しく理解できていることが伺える。 ●粒の大きさの違いによる水のしみこみ方を答える問題では、正答率が56.5%で、市の平均を8.8ポイント下回った。実験で体験したことと題意を結びつけることができていることが無回答率15.2%という結果から考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、実体験を伴いにくい教材に関しては、ICTや、動画、模型などを活用したり、体験していない実験にも当てはめて考えたりすること等を通して、具体的な変化の様子や原理をわかりやすく捉えることができるように指導を行っていく。 ・授業の終末に単元に関するクイズ作りを行うなど、題意を理解するための基礎的な言葉の使い方を体験的に学ぶ機会を設け、既習事項を日常生活の中で繰り返し意識させ、確実な定着を図る。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習に関わるものとして「家で、勉強するときに大体同じ時刻に取り組むようにしている」に対する肯定的回答は78.3%で市より15.3ポイント高い。また、「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」に対する肯定的回答は71.7%で市より10.6ポイント高い。今後も児童が家庭学習に熱心に取り組むように学習内容を工夫していく。

○学校での様子に関わるものとして「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に対する肯定的回答は63%で市より12.1ポイント高い。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」に対する肯定的回答は97.8%で市より10.9ポイント高い。今後も児童同士の対話的な活動を通して学習内容の定着が図られるよう授業展開を工夫していく。

○家での生活に関わるものとして、「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」に対して1時間より少ないと答えた児童は43.4%で市より12.3ポイント高い。また、「早寝早起きを心掛けている」に対する肯定的回答は89.1%で市より12.5ポイント高い。今後も時間やきまりを守って規則正しい生活を送ることができるよう健康教育を推進していく。

●一方で「家で、テストで間違えた問題について勉強している」に対する肯定的回答は69.5%で市より23.6ポイント低い。「家で学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」に対する肯定的回答は52.1%で市より8.3ポイント低い。家庭学習の中で授業やテストで分からなかった問題を復習させることで学習内容の定着を図っていく。

宇都宮市立岡本小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が言葉の力を伸ばす工夫	各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い、課題は何か、何をどのように学んだのかを気付けるようにする。 自分の考えを適切に言語化できるよう、学習形態を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりし、学習に取り組むことができるようにする。	「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」に対する肯定的割合は、4年生は84.6%で県の平均より1.4ポイント高く、5年生は97.8%で県の平均より8.6ポイント高い。 「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」に対する肯定的割合は、4年生は92.3%で県の平均より9.2ポイント、5年生は97.3%で県の平均より10.9ポイント高い。 4・5年生ともに、問題文を読み、その中で示されている条件を捉えて、条件通りに正しい答えを出すことに誤答や無回答が見られる。
児童が自信をもって伝え合うための工夫	授業で各教科における重要語句を繰り返し意識させ、活用できるようにするとともに、本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行い定着を図る。 また、話合いの話し型・書き方の型を提示し、それをもとに友達と論理的に話合いを進め、課題解決に見通しをもって取り組めるようにする。	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよくしている」に対する肯定的割合は、4年生は74.4%で県の平均より3.4ポイント高く、80.4%で県の平均より3.3ポイント高い。 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的割合は、4年生は56.4%で県の平均より8.8ポイント低く、5年生は58.7%で県の平均より4.2ポイント低い。国語の記述問題の正答率は4・5年生ともに市の平均正答率を下回り、無回答の児童も多かった。 4・5年生ともに、授業で決められた活動には意欲的に取り組めるものの、自分の言葉で表現することに自信が持てない児童が多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、各教科に共通する課題として、長文の問題文の題意を捉えきれておらず、文章で理由を説明する問題や条件に沿った内容に説明文を要約する問題の正答率が低い傾向がある。	各学年、各教科で教科の重要語句を理解させ、既習の語句や内容を繰り返し取り上げ、自分で考えを書いたり説明したりする言語活動を、教科横断的に取り入れる。 教師が児童の発言をコーディネートし話合い活動を充実させる。	どの教科においても、国語辞典や漢字辞典、ICT機器を活用し、語彙の正確な意味を理解しながら文章を読む活動を意図的に設け、語彙力を増やす。また、教科の重要語句を使い文字数や段落などの条件を付け加えた文章を書く活動を取り入れ、的確に表現する方法を習得させる等、言語活動の質を高める。また、授業内容に関する「パワーアップシート」や「復習教材」「過去問題」を適宜取り入れ、様々な問題を解く機会を意識して設ける。 話合い活動で、児童の思考過程を教師が質問などで考え方や根拠を導き出し、論理的な話合いを成立させ、児童同士で相互の意見の意図が理解できる言語活動を設定する。